

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E142N009	英語の心理言語学 (English Psycholinguistics)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部			氏名 大谷由布子 E-mail otaniyuko@oita-u.ac.jp 内線 7580											
授業の概要	人がことばを獲得する過程、言語の認知処理と生成過程など、心理言語学の基本的な知識を習得する。講義とディスカッションに加え、個人やグループで研究事例を調べたり、実験的手法を使って分析するなど、身近な事例をもとに言葉と心理の関係について考える。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	言語習得の過程を知ることで、どのような順序で学習を進めればよいかを予測することができる。																
目標2	言語の理解と産出について理解することで、よりよい学習や指導の在り方、そのための方法を提示することができる。																
目標3	調査や研究の基本的な手法について知り、授業や研究活動に役立てることができる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	子供の認知的発達とことば																
3	言語習得のメカニズム																
4	年齢と言語習得																
5	言葉を理解するプロセス																
6	言葉を産出するプロセス																
7	動機づけを高める心理言語学的アプローチ																
8	聞く指導における心理言語学的アプローチ																
9	話す指導における心理言語学的アプローチ																
10	読む指導における心理言語学的アプローチ																
11	書く指導における心理言語学的アプローチ																
12	心理言語学研究の手法																
13	質的研究と量的研究																
14	グループ発表(研究計画)																
15	まとめと振り返り																
ラーニング	A:知識の定着・確認	予習と復習を通して、省察と考察を深める。心理言語学のテーマについて、グループワークを通じて協働し課題を探究する。興味のあるテーマについて研究の計画をたてる。					工夫	その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	予習課題への取組(1時間)															
	事後学修	学習内容の見直しと振り返りノートへの記入、課題への取組、研究テーマの探求(1時間)															
教科書	資料を配布する。																
参考書	Zoltán Dörnyei, "Research Methods in Applied Linguistics" (2019), Oxford University Press.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業内での課題への取り組み	40%															
	グループワーク	30%															
	定期試験	30%															
注意事項	なし																
備考	なし																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E112N021		英語の言語文化(Introduction to English Studie)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	3	教育学部 平成31年 度入学生用			氏名 山野敬士 E-mail 内線												
授業の概要	授業は、英語表現に関する簡潔な英文を読むことで英語力の確認する要素と英語圏の文化を理解する要素に分けられる。まず、前者ではリーディング能力を中心に「教科に関する確実な専門知識」を養うことを目的とする。また、後者では方言や音楽、口語表現などを学ぶことで異文化理解を深め、それを「活用的学習や探求的学習」に活用する技法について考察していく。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 英語構文を中心に正確に英文を読みとり、「教科に関する確実な専門知識」を身に付けることができる。																		
目標2 異文化を学び、自らの英語授業に活かすことができるようになる。																		
目標3 言語に対する興味的重要性を「探求的学習」などにおいて自らの教授法として活かすことができる。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 授業内容の説明 言語文化に関する講義																		
2 興味深い英語表現について(1) 英語構文に注意しながら読解																		
3 興味深い英語表現について(2) 語彙に注意しながら読解する																		
4 興味深い英語表現について(3) 歴史的な観点から																		
5 アメリカ文化について(1) マクドナルドやスターバックス																		
6 アメリカ文化について(2) ハリウッドやブロードウェイ																		
7 アメリカ文化について(3) 野球やバスケットボール																		
8 アメリカ文化について(4) ポップアート																		
9 アメリカ文化について(5) ブルース																		
10 アメリカ文化について(6) 方言																		
11 文学的言語表現について 英語 日本語の翻訳 語学的比較																		
12 文学的言語表現について 英語 日本語の翻訳 文化的比較																		
13 文学的言語表現について 日本語 英語の翻訳 語学的比較																		
14 文学的言語表現について 日本語 英語の翻訳 文化的比較																		
15 まとめ 学生による発表や討論																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	英文和訳を中心に学生に発表してもらいます。重要な英語表現に関する確認テストなどを行います。					工夫	その他の										
ニテ	B:意見の表現・交換																	
ンイ	C:応用志向																	
グ	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	担当範囲の英文和訳作成 各授業の主題に関する自分の意見を発表する準備(1h)																
	事後学修	英語表現に関する確認テストの勉強。レポート作成.(1h)																
教科書	教員作成のプリント																	
参考書	進度や学生の興味に合わせて、随時紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	確認テスト	40%																
	レポート	40%																
	授業内の発表や議論	20%																
注意事項	その都度、授業中に注意を与える。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	